

死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和5年
4月号

令和4年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
確定値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）における令和4年（確定値）の休業4日以上之死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）は図表のとおり、死亡者数は0人、休業4日以上之死傷者数は243人です。

全業種合計では、4人、1.6%の減少となり、業種別では製造業及び建設業では減少となっているものの、道路貨物運送業、小売業などで大きく増加しています。また、業種をさらに細かく見ると、製造業の中でも食料品製造業では増加しており、建設業の中でも土木工事業では増加しています。

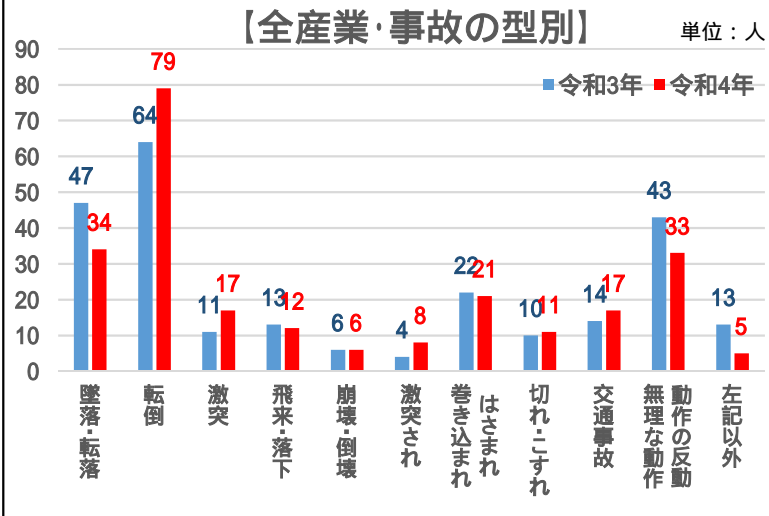
管内では令和4年は死亡者0人を達成しており、令和5年も死亡者は発生していませんでしたが、県内では今年に入り死亡災害が急増し、3月9日付で三重労働局長名で「労災死亡事故非常事態宣言」が発出されました。

今年度も引き続き安全確保にご協力をお願いいたします。

【令和4年 休業4日以上之死傷災害発生状況 伊勢署】

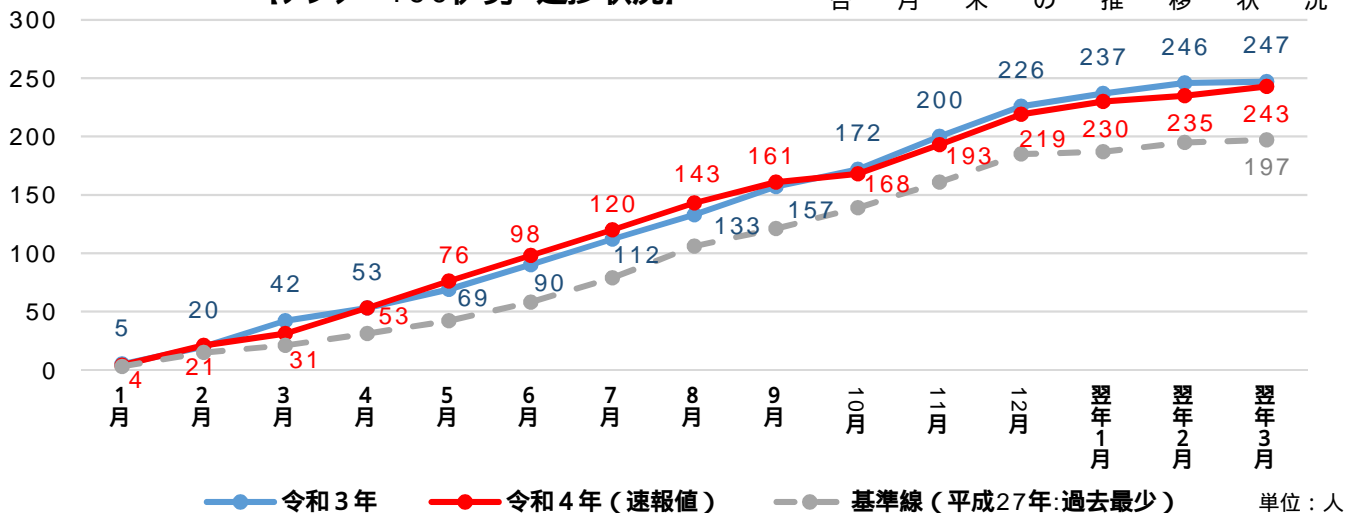
	令和3年		令和4年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種	2	247	0	243	-4	-1.6%
製造業	2	51	0	39	-12	-23.5%
建設業		33		27	-6	-18.2%
道路貨物運送業		8		16	+8	+100.0%
林業		5		5	±0	±0.0%
小売業		32		46	+14	+43.8%
社会福祉施設		33		35	+2	+6.1%
旅館業		20		16	-4	-20.0%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】

休業4日以上之死傷者数
各月末の推移状況



令和5年死亡災害ゼロ・アンダー190伊勢推進運動の策定について

令和4年に引き続き、令和5年も死亡災害ゼロと死傷災害190人未満を目指し、アンダー190運動を実施いたします。様々な活動を行ってまいりますので、引き続き、労働災害の減少に、皆様ご協力をお願いいたします。

令和5年 死亡災害ゼロ・アンダー190伊勢 推進運動

伊勢労働基準監督署では、第14次労働災害防止計画（期間：令和5年～令和9年）により、死亡災害ゼロ、死傷者数190人を下回ることを目指して計画を推進していますが、令和4年の労働災害は、死亡者数0人、死傷者数235人（令和5年2月末速報値）となっています。

そのため、特に労働災害が多い業種や労働災害の種類などの発生傾向を踏まえて重点対象を定め、令和5年「死亡災害ゼロ・アンダー190伊勢」推進運動を展開します。

主な取り組み

- ◆ 安全衛生情報トピックスの発信（毎月更新）
- ◆ 安全衛生管理計画による自主的安全衛生活動の促進
- ◆ 製造業を対象とした安全パトロールの開催
- ◆ 道路貨物運送業を対象とした安全研修会の開催
- ◆ 小売業を対象とした安全研修会の開催
- ◆ 機械災害防止研修会の開催
- ◆ 墜落災害防止研修会の開催
- ◆ 全国安全週間啓発パトロールの実施
- ◆ 高齢労働者の体力・健康チェックの促進（全国労働衛生週間）
- ◆ FC.ISE-SHIMAとの連携による行動災害防止活動

三重労働局ホームページ「伊勢労働基準監督署のお知らせコーナー」のご案内

管内の労働災害発生状況、独自の災害防止啓発資料などの情報を発信しておりますので、ご活用ください。

伊勢監督署 お知らせ 検索



<https://site.mhlw.go.jp/mie-roudoukyoku/kantoku/ise04.html>

死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和5年
5月号

令和5年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
4月末速報値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）における令和4年（確定値）の休業4日以上¹の死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）は図表のとおり、死亡者数は0人、休業4日以上¹の死傷者数は63人です。

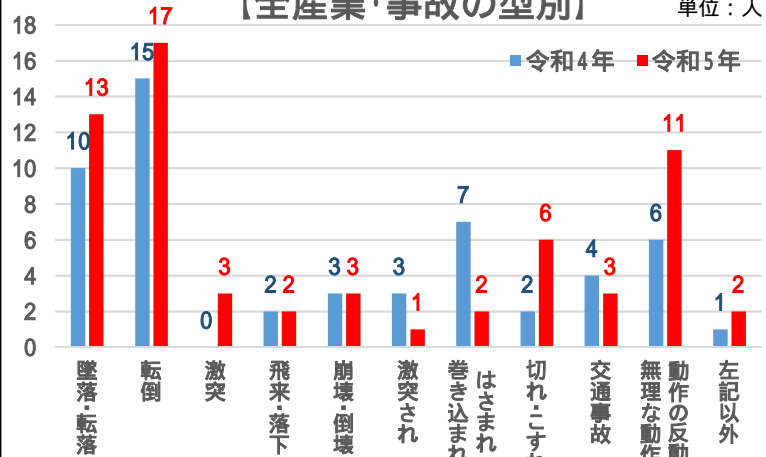
全業種合計では、10人、18.9%の大幅増となり、4月の1か月で37件もの休業4日以上¹の労働災害が報告されています。業種・事故の型別においても全体的に件数が増加しており、この労働災害増加に歯止めをかける必要があります。

令和5年度は第14次労働災害防止計画の初年度です。三重労働局では「死亡災害ゼロ」を目指し、14次防期間中の死亡者数を5%以上減少（71人以下）させ、死傷者数2,000人未満（「アンダー2,000」）を目指し、死傷者数を2022年と比較して2027年までに減少に転ずる（2,316以下に減少させる。）こととしています。

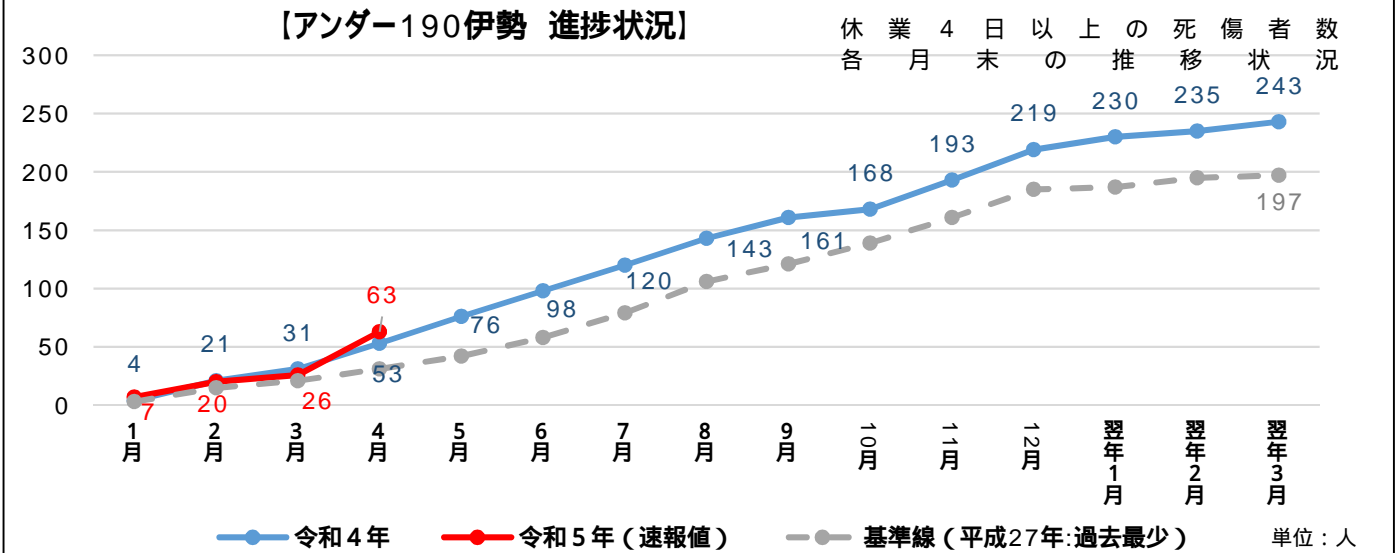
【令和5年 休業4日以上¹の死傷災害発生状況 伊勢署】

	令和4年		令和5年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種		53		63	+10	+18.9%
製造業		9		11	+2	+22.2%
建設業		5		8	+3	+60.0%
道路貨物運送業		1		2	+1	+100.0%
林業		2		2	±0	±0.0%
小売業		9		9	±0	±0.0%
社会福祉施設		8		7	-1	-50.0%
旅館業		6		9	+3	+50.0%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】



FC.ISE-SHIMA 選手に対し、SAFE サポーター養成研修を実施

伊勢労働基準監督署では、令和4年から地元サッカーチームであるFC.ISE-SHIMA と労働災害防止に関する協定を締結し、職場のパトロールの実施等を行ってきました。

当該取組の一環として、伊勢労働基準監督署は、FC.ISE-SHIMA 選手に企業・ファンの皆様に労働災害防止の周知啓発を進めていただく「SAFE サポーター」に就任していただくため、令和5年5月18日に「SAFE サポーター養成研修」を伊勢フットボールヴィレッジにて実施しました。

研修内では、伊勢労働基準監督署の安全衛生課長である佐藤が、協定の趣旨、労働災害と労働災害防止対策の歴史、墜落・転落災害と行動災害（転倒・腰痛災害等）を防止するための対策の違い、熱中症対策などについて学びました。

選手の皆様には、今後 SAFE サポーターとして、自らが勤める事業場内のみならず、FC.ISE-SHIMA の活動を通じ、一般の方々にも労働災害防止を労使の協力により実現するための取り組みを周知していただく予定です。



死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和5年
6月号

令和5年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
5月末速報値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）における令和4年（確定値）の休業4日以上¹の死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）は図表のとおり、死亡者数は0人、休業4日以上¹の死傷者数は82人です。

全業種合計では、7人（9.2%）の増加となり、業種別では製造業が、事故の型では墜落・転落、切れ・こすれ、動作の反動・無理な動作が増加しています。

このうち、墜落・転落災害については、階段・高所での転倒により墜落・転落したといった、その性質としては転倒災害に近いものが大半となっています。

7月1日から7月7日は全国安全週間であり、また7月は墜落防止強調月間でもあります。

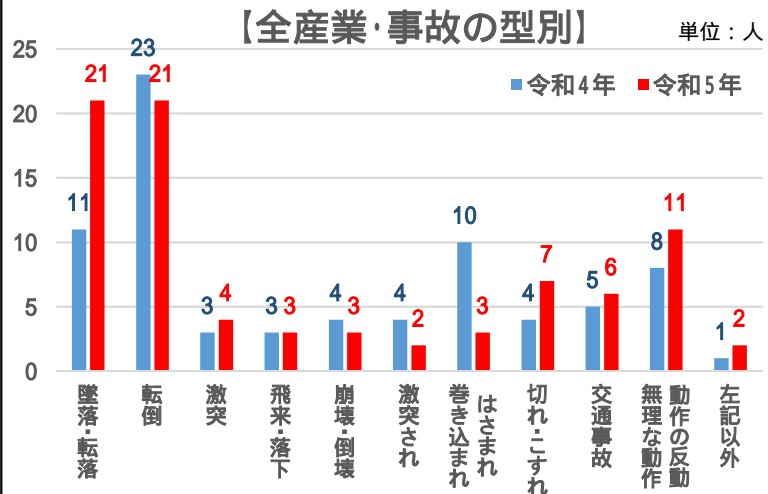
近年の墜落災害は建設業における足場からの墜落よりも、トラックの荷台、ハンゴ・脚立、階段など様々な業種で発生しうるものが中心となっています。

そのため、全ての業種において墜落・転落災害を防止するための取組にご協力をお願いいたします。

【令和5年 休業4日以上¹の死傷災害発生状況 伊勢署】

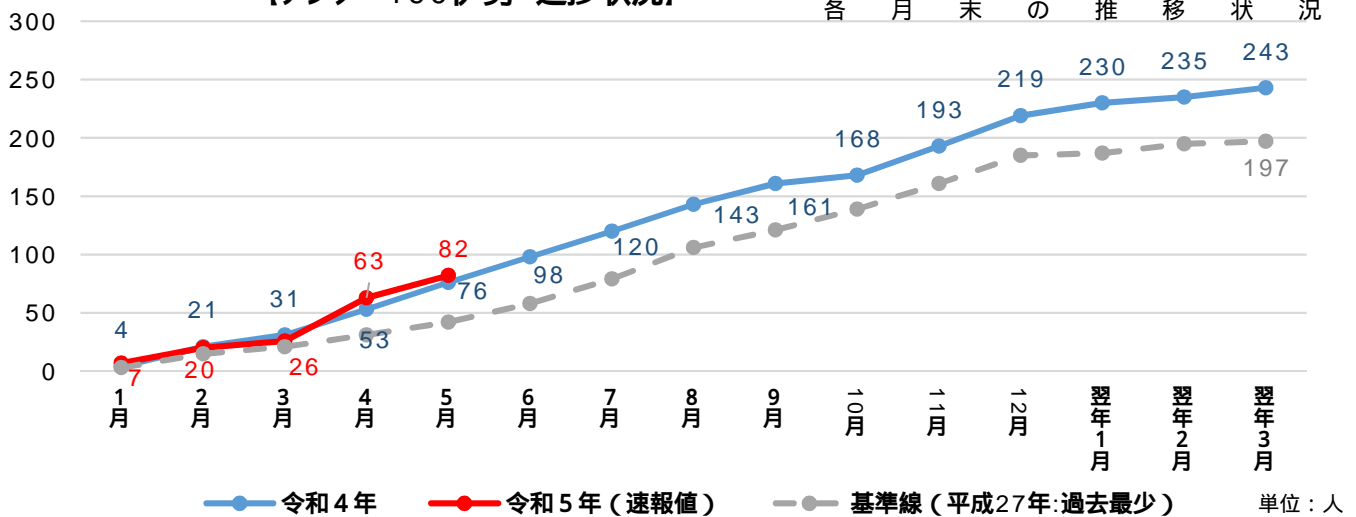
	令和4年		令和5年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種		76		82	+7	+9.2%
製造業		11		16	+5	+45.5%
建設業		13		12	-1	+7.7%
道路貨物運送業		3		3	±0	±0.0%
林業		2		2	±0	±0.0%
小売業		13		11	-2	-15.4%
社会福祉施設		10		10	±0	±0.0%
旅館業		8		9	+1	+12.5%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】

休業4日以上¹の死傷者数
各月末の推移状況



一日署長によるパトロールを実施しました

伊勢労働基準監督署では、令和5年6月27日（火）に、伊勢労働基準協会との共催により、一日労働基準監督署長による職場パトロールを実施しました。

一日署長には地元サッカークラブである FC. ISE-SHIMA の理事長兼監督である小倉隆史氏が就任し、横浜ゴム株式会社三重工場（伊勢市御園町高向 1038 番地）において同社に雇用される選手3人とパトロールを実施しました。

また、当日は FC. ISE-SHIMA の選手に対する、令和5年度の SAFE サポーター就任式も併せて実施しました。

パトロールでは、小倉一日署長が横浜ゴム株式会社大楽工場長から、トラック用のタイヤを製造する工程について案内を受け、選手が工程を実演しながら機械の安全装置、緊急停止装置、熱中症防止のスポットクーラー、転倒防止措置などの設備を確認しました。

また、SAFE サポーターとなった選手らは、危険箇所の確認を行い「消火器の設置場所が頭を打ちかねない場所である」、「製造現場のステージから踏み外して墜落する危険性がある」、「配電ケーブルの架線に引っかかって断線・感電する危険性がある」などの指摘を行いました。



挨拶をする小倉一日署長



製造工程を見せる及川選手と小倉一日署長

